

# **桑名駅周辺地区整備構想**

**平成 30 年 8 月**

**桑 名 市**

## 目 次

---

1. 桑名駅周辺地区の位置付け	1
2. 桑名駅周辺地区における課題の整理	10
3. 桑名駅周辺地区のまちづくりの方針	17
4. 桑名駅周辺地区のまちづくりのデザインコード	18
5. 桑名駅周辺地区の空間デザインの在り方	20
6. 桑名駅周辺地区の整備方針（案）	21

# 1. 桑名駅周辺地区の位置付け

---

## (1) 桑名市総合計画 [2015-2024]

〔出典：桑名市総合計画（平成 27 年 3 月）〕

### 1) 基本理念

桑名に暮らす私たちが、当たり前だと思い、つい忘れてしまいがちになる桑名の歴史・文化・生活は、世界中の人々に対して堂々と語ることができる「本物」の価値、力をもっています。

この桑名の人々の「本物」を「見つけ出し」「磨き上げ」「大きくする」力、いわゆる「本物力」、それは桑名の力＝「桑名力」です。「まちづくり」においても、この「桑名力」を活かして取り組めると考えます。



### 2) 桑名市の主要課題（施策の背景） ※7つの主要課題の内⑤のみ抜粋

#### 5 広域交通の拠点性の活用（地理的優位性を活かした元気なまち）

桑名市の歴史を振り返ると、先人たちは、恵まれた地理・地勢を最大限に活かし、広域交通の要衝として、また物流の拠点として、桑名を繁栄に導いてきました。

近い将来、東海環状自動車道や新東名高速道路が整備されることで、桑名市とその周辺地域は、広域交通の優位性がさらに高まるエリアとなります。桑名市はそのなかで重要な位置を占め、経済・産業をさらに活性化させるチャンスが訪れます。

そのためには、桑名に求心力を持たせ、ヒト・モノ・カネが集まる、活気あふれるまちをつくる必要があります。

国道や県道などの幹線道路の事業推進を働きかけるとともに、市内につながる路線や生活道路などの整備・強化、市内公共交通の維持・確保、また、中心市街地の機能強化・魅力づくりをおこなっていくことが求められます。

### 3) 桑名市の将来像を実現するための7つのビジョン

基本理念に掲げた、桑名の「本物力」を発揮し、私たちの桑名市の将来像を実現するための指針を表すものとして、7つのビジョンを掲げました。

- ✦ 「中央集権型から全員参加型の市政に」
- ✦ 「命を守ることが最優先」
- ✦ 「こどもを3人育てられるまち」
- ✦ 「世界に向けて開かれたまち」
- ✦ 「地理的優位性を活かした元気なまち」
- ✦ 「桑名をまちごと『ブランド』に」
- ✦ 「納税者の視点で次の世代に責任ある財政に」

7つのビジョンの内、5番目と6番目の施策の方向性は以下のとおりです。

#### 5 地理的優位性を活かした元気なまち

桑名市は日本の東西・南北を結ぶ交通・物流の要衝にあり、また、日本のものづくりの中核で経済力を持つ愛知県・名古屋市と三重県をつなぐ結節点でもあります。東海環状自動車道、新名神高速道路の整備が進みつつあり、その優位性は一層高まると期待されます。将来的にリニア中央新幹線が整備されると、東京（品川）から桑名の移動時間は1時間ほどになると想定されます。このため、地理的優位性を活かした構想や、まちづくりを進める必要があります。名古屋港、四日市港、中部国際空港とのアクセスの良さも活かし、これらと連携して東海圏のハブシティを目指すことができます。地理的優位性を活かすために、都市構造としての環境整備をおこないつつ、広域道路網へのアクセス向上および公共交通の活用といった地域交通の円滑化を図り、観光、交流資源の連携、中心市街地の魅力向上などに取り組んでいきます。

#### 6 桑名をまちごと『ブランド』に

桑名市には、先人たちが築き上げてきた歴史や文化、産業、都市基盤など誇れるものが多くあります。しかし、この素晴らしい価値や魅力あるものが日常のなかに何気なく溶け込んでいて気付かずに活用されていないものも数多くあります。この状況を大きく転換し、桑名をまちごとブランド化するための、プロモーション活動を積極的に行っていきます。このため、ブランドづくりの基本となる資源の発掘、磨き上げ、すそ野の拡大を進めます。農林水産業やものづくり産業の振興、商業の活性化、文化・スポーツ活動の向上、生涯学習活動による人づくりに、市民や企業とともに取り組みます。さらには、まちの景観や良好な住環境の整備など、都市のイメージが向上する取り組みを、市民と協働で進めます。

#### 4) 中心市街地ゾーンと中心拠点

また、総合計画の土地利用構想図では、**中心市街地**と**中心拠点**として位置付けられています。

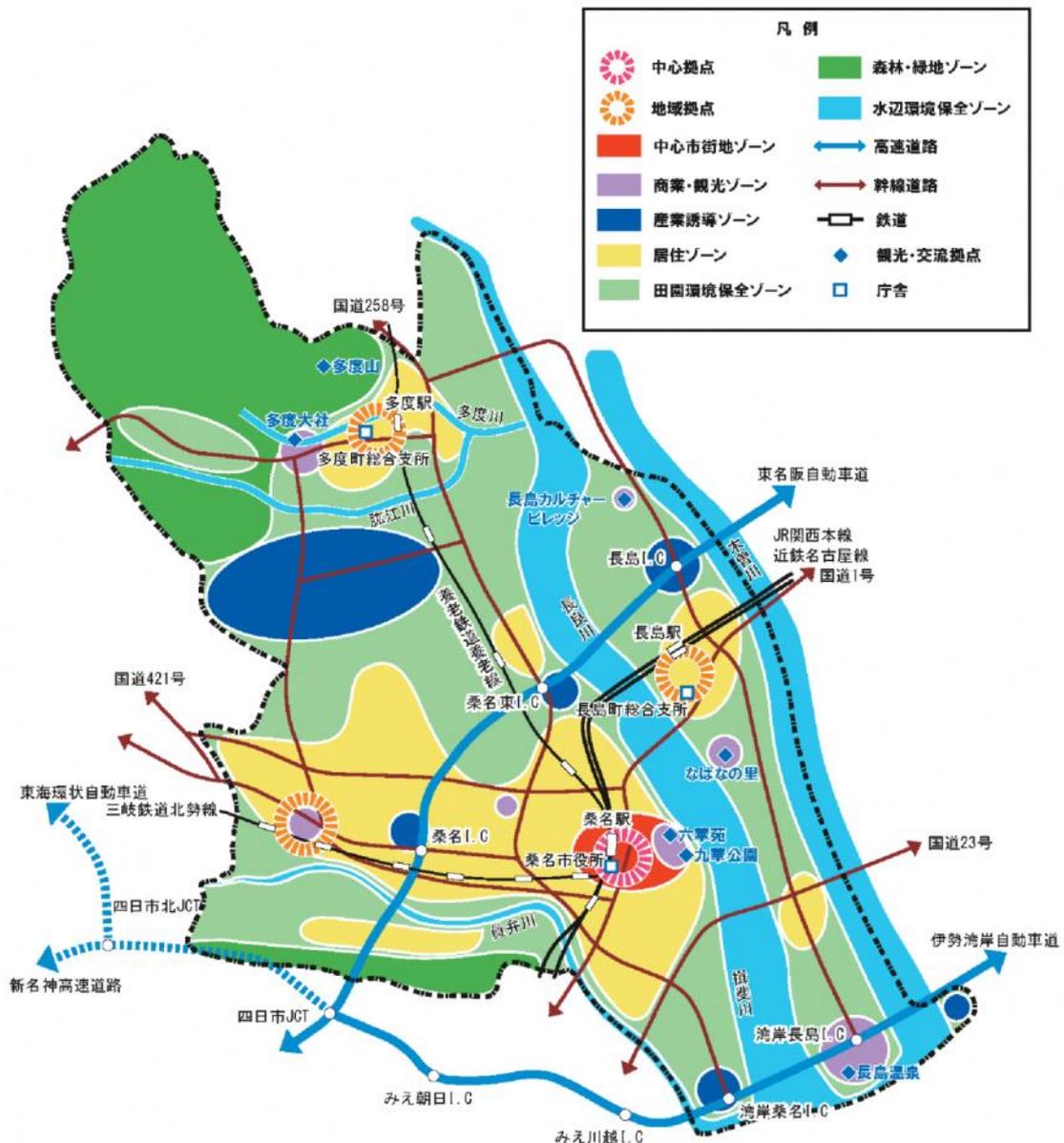
#### 1. 中心市街地ゾーン

桑名駅の東西に形成されている市街地を**中心市街地**として位置付け、各種都市機能の集積を図り、内外から人が集まる賑わいと活力ある拠点づくりを進めます。

#### 8. 中心拠点

交通結節点である桑名駅周辺を**中心拠点**として位置付け、コンパクトな都心を目指すため、機能の再構築を図ります。

土地利用構想図



## 5) コンパクト 便利ですてきな まちづくり

### 施策の現状は？

(地理的優位性を活かした元気なまち)

- 桑名駅周辺では、鉄道による東西の分断化により、地域の交流が妨げられています。
- 中心市街地において、急速に進む高齢化社会に対し、歩いて暮らせるまちづくりが求められています。

### 課題は？

- 桑名駅西周辺の混雑を減らし利便性の向上を図るため、桑名駅西土地区画整理事業を進める必要があります。それに合わせて、自由通路整備などによる東西一体型整備をおこない、駅周辺と中心市街地の機能強化、魅力創りが必要です。
- 旧城下町で、これからも継続的な魅力ある観光交流都市づくりが必要です。また、高齢化社会に対応し、歩いて暮らせるまちづくりを進めるためには、駅を中心としたコンパクトなまちづくりの再編整備が必要です。

### 目指す姿を実現するために必要なのは？

#### 都市交通拠点の整備

- 桑名地区の玄関口である桑名駅周辺では、都市基盤や交通結節点としての整備を進めます。また、**都市機能の再構築による持続可能な都市をめざします。**

#### にぎわいある中心市街地の整備

- 歴史的、文化的資源を活用した集客・交流機能の整備などを進め、安心して誰もが暮らせ、**訪れたいコンパクトシティをめざします。**

## 6) 美しく みんなが住み良い まちづくり

### 施策の現状は？

(桑名をまちごと『ブランド』に)

- 公共施設で、**ユニバーサルデザインを取り入れた**、人にやさしいまちづくりが求められています。

### 目指す姿を実現するために必要なのは？

#### 桑名ブランドの推進

- 桑名のまちなみをはじめとする**都市デザインを桑名ブランドとして**誇れるよう、関係機関と取り組みを進めます。

#### みんなに優しいまちづくり

- 歩行者空間をはじめ、公共施設などに**ユニバーサルデザイン**を取り入れ、人にやさしいまちづくりを進めます。

## (2) 桑名市立地適正化計画

〔出典：桑名市立地適正化計画（平成 29 年 3 月）〕

### 1) 目標とする将来都市像及びまちづくり方針

#### ■立地適正化計画の基本理念

桑名市特有の歴史・文化を受け継ぎ、  
今後の人口減少・超高齢社会に対応する  
持続可能な安全で快適な都市環境の形成

#### ■将来都市像

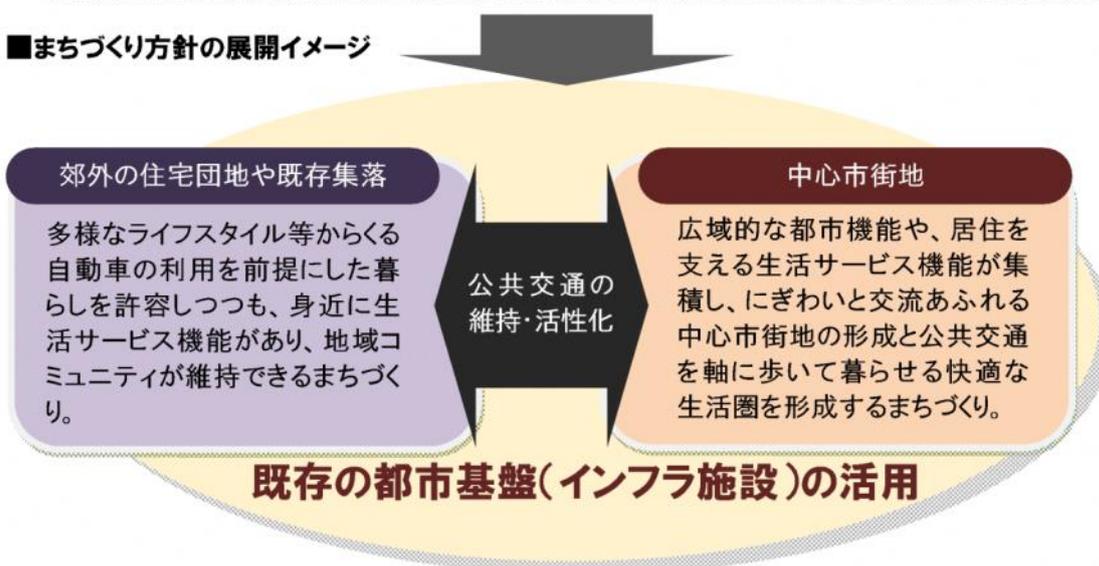
快適な暮らしを次世代にも誇れるまち

#### ■まちづくり方針

##### 基本的な方針(桑名市が目指す都市構造)

- ① 歴史や文化を継承し、桑名駅を中心に交通結節点の機能が強化され、都市機能の集積やまちなか居住により中心市街地が一体となり活性化する都市構造
- ② 鉄道やバス路線などの公共交通が維持され、交流が促進される都市構造
- ③ 歩いて行ける範囲に生活サービス施設(商業施設、医療福祉施設等)が立地し、皆が健康に暮らすことのできる都市構造
- ④ 地域行事への参加や趣味の活動等を通じて地域コミュニティが育まれ、誰もが居場所のある都市構造
- ⑤ 都市基盤や都市機能等の既存ストックが有効に活用される都市構造
- ⑥ 地震、津波、がけ崩れ等の災害から人の命を守ることを最優先とする都市構造

#### ■まちづくり方針の展開イメージ



## 2) 桑名市の集約型都市構造

### 中心拠点

- 桑名駅周辺を、市内外から人が集まるにぎわいと活力ある拠点として位置づけ、商業・観光、金融・業務、行政、医療・福祉、教育・文化・交流機能等の多様な都市機能の維持と更なる集積を図ります。

### 公共交通（鉄道・バス）による都市軸の形成

- 隣接都市相互や中心拠点と地域拠点を結ぶ鉄道4路線（JR線、近鉄線、養老線、北勢線）を都市軸として位置づけます。
- 人口が集積している中心拠点と地域生活拠点を結ぶバス路線を都市軸として位置づけます。市内各地と拠点や都市軸を結ぶアクセス機能を確認するため、コミュニティバス等によるネットワークの形成を図ります。

### ■ 桑名市の集約型都市構造イメージ



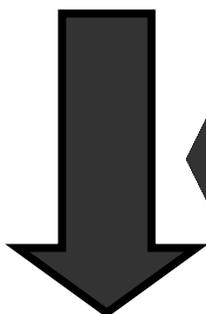
### (3) 桑名市都市総合交通戦略

〔出典：桑名市都市総合交通戦略（平成30年3月）〕

#### 1) 都市交通体系の方針

##### 桑名市が目指すコンパクトなまちづくりを進める上での都市交通の課題

- ① **都市の骨格を形成する鉄道の維持・活性化**
  - ・都市の骨格を形成する鉄道を軸にまちづくりと連携した公共交通体系の構築が課題
  - ・利用者の少ない養老鉄道、北勢線では鉄道の維持・活性化が課題
- ② **路線バスによる高いサービス水準の維持と中心拠点等へのアクセス利便性の確保**
  - ・少子高齢化に伴う通勤・通学需要の減少を背景としたバスサービス水準の低下が懸念
  - ・多様な都市機能を集積・誘導する中心拠点（桑名駅）及び地域拠点（多度駅、長島駅及び星川駅）周辺へのアクセス利便性の確保が課題
- ③ **生活拠点の形成と高齢化を見据えた安全で安心な拠点内モビリティの確保**
  - ・日常生活圏を踏まえた都市機能の集約化と進展する高齢化を見据えた安全で安心な歩行者・自転車通行空間等拠点内モビリティの確保が課題
- ④ **円滑かつ快適な自動車利用環境の確保**
  - ・交通の要衝にある本市においては広域交通の円滑な処理が課題
  - ・主要な交差点や踏切部に存する主要渋滞箇所の緩和・解消による快適な自動車利用環境の確保が課題



##### 多様な分野との連携、まちづくりとの一体化が求められる都市交通

- 単なる移動手段のみならず、地域づくり戦略、商業振興、観光交流、福祉政策など、様々な分野と連携した交通施策の展開が期待
- まちづくりと一体となった公共交通の再編、既存ストックを活用した道路交通環境の整備・改善が期待

##### コンパクトなまちづくりを支援・誘導する都市交通体系の方針

1. 鉄道やバス（幹線）を軸に、バス（支線）、タクシー等多様な交通手段が一体となって機能する公共交通ネットワークを形成、北勢線は住宅団地から拠点駅（星川駅等）へのアクセス利便性や乗継ぎ機能を強化、養老線はまちづくり計画や観光振興と連携した2次交通を充実
2. 新病院の整備に合わせたバス路線の再編、中心市街地との関連が希薄な大山田団地等と連絡する公共交通サービスを充実
3. 都市・地域・生活の各拠点内では、歩いて暮らすことを基本としつつ、地域住民が参画する中で、安全かつ安心に移動できる交通環境を創出
4. 主要な幹線道路の交差点や踏切部等に存する主要渋滞箇所を緩和・解消し、円滑かつ快適な自動車走行環境を確保



#### (4) 中心市街地における目標

桑名市総合計画及び桑名市立地適正化計画において、桑名駅周辺地区は、中心拠点として位置づけられています。

今後、急速に少子高齢化が進展する中で、人口減少に歯止めをかけ、地方創生を図るためには、コンパクトシティの実現とともに、桑名駅周辺を含む中心市街地においては、大きく以下の3つの目標に取り組むことが重要であると考えます。

##### ① 新たな交流拠点づくり

桑名駅を中心とした市域東西において  
分断された新旧市街地の交流拠点

##### ② 立地条件を活かした広域的集客力の強化

長島温泉・なばなの里・多度大社といった  
広域観光施設と連携できる魅力拠点整備

##### ③ “ブランドカ” による再生

歴史資源や食文化等、桑名市特性のブランドによる活性化

## 2. 桑名駅周辺地区における課題の整理

### (1) 桑名市の人口と公共交通

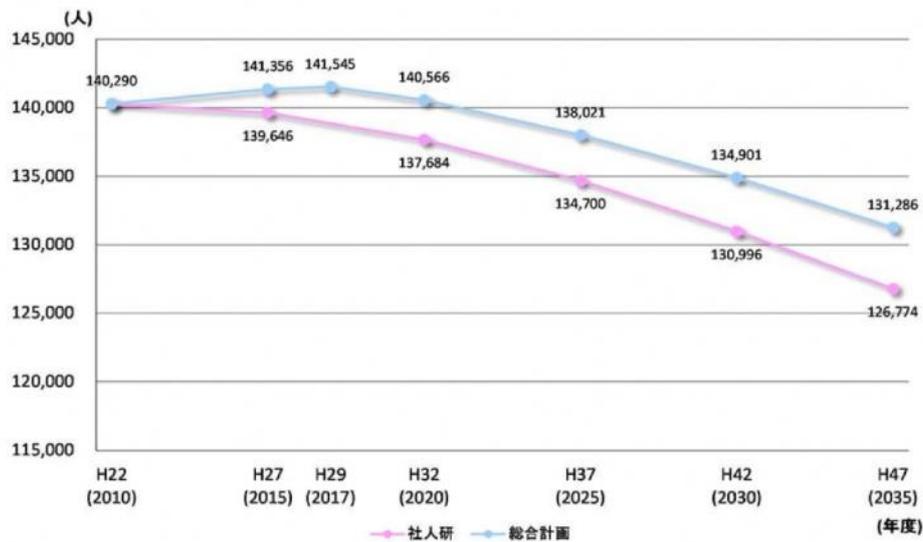
〔出典：桑名市立地適正化計画（平成 29 年 3 月）及び桑名市都市総合交通戦略（平成 30 年 3 月）より抜粋〕

#### 1) 人口の将来見通し

桑名市の将来人口は、市総合計画によると、平成 29 年（2017 年）まで本市の人口は増加を続け、それ以降減少に転じると推計されており、平成 47 年（2035 年）には、約 131,286 人と、20 年間で約 10,000 人の減少が見込まれています。

また、人口分布においては、市街地の中心部や比較的早い時期に開発が行われた大山田団地等で人口減少が見込まれ、特に、桑名駅以東の八間通り沿道で、古くからの既成市街地を中心に大きく人口が減少することが見込まれています。

図表 将来人口の見通し



※H22 年は国勢調査による実績値

出典：市総合計画、日本の地域別将来推計人口平成 25 年 3 月推計(国立社会保障・人口問題研究所)

#### 人口の推移 (S30~H27)

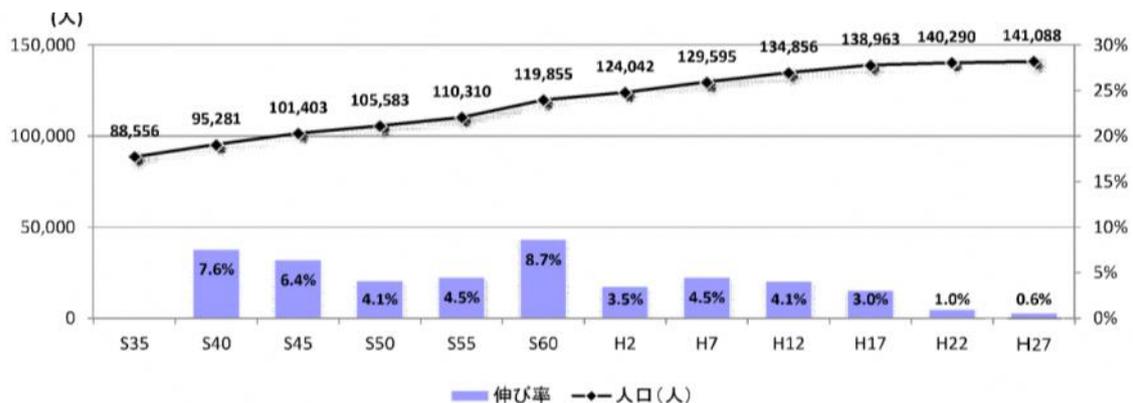
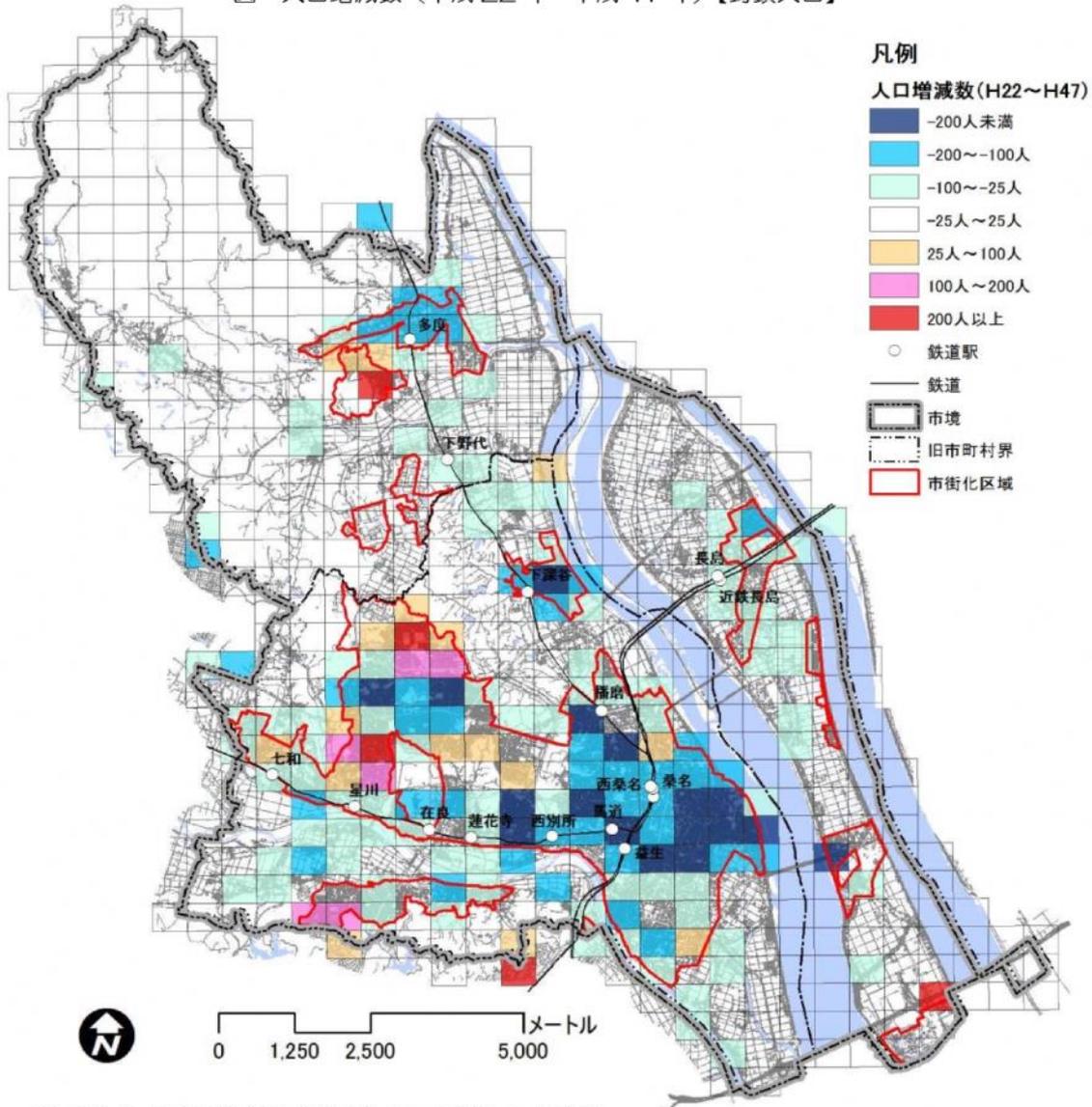


図 人口増減数（平成22年～平成47年）【封鎖人口】



※平成47年は社会移動を考慮しない封鎖人口を推計

封鎖人口：転出入が一切なく生残率のみで規定されると仮定した理論上の人口

## 2) 公共交通利用者数

本市の鉄道利用者数は、平成 20 年度以降、約 1 千万人で推移しており、生産年齢人口の減少により、鉄道利用者数が伸び悩んでいます。

鉄道駅別の利用者数をみると各路線において、桑名駅・西桑名駅の利用者数が多くなっています。

Kーバス利用者数は、平成 20 年から平成 23 年にかけて減少し、その後増加に転じ、近年は増加傾向ですが、路線によってその利用状況は異なっています。

各駅の駅端末交通手段構成をみると、バスターミナルとなっている桑名駅・西桑名駅で、バスの割合（近鉄 20.1%、JR9.9%、三岐鉄道 5.6%）が高く、鉄道とバスの乗り継ぎ拠点として機能していることが分かります。

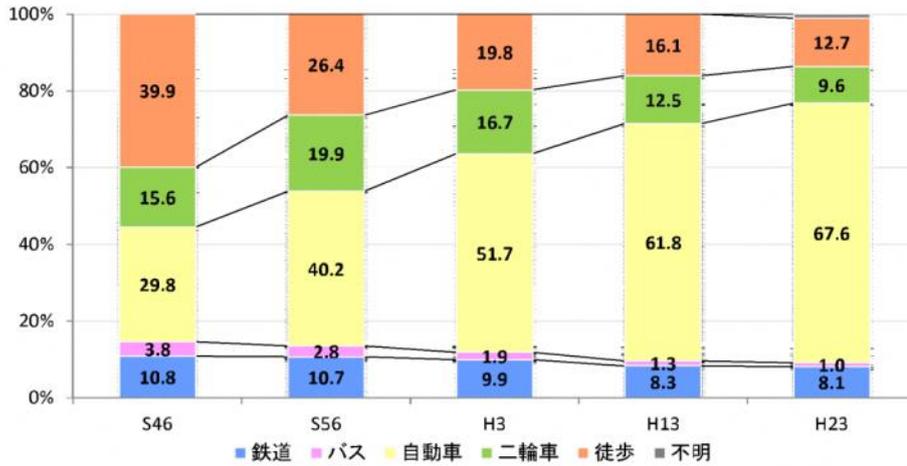
桑名市における代表交通分担率は、鉄道 9.5%、バス 1.4%、自動車 70.0%と、県平均に比べ、公共交通と自動車の割合が大きくなっています。

平成 25 年度鉄道利用者数



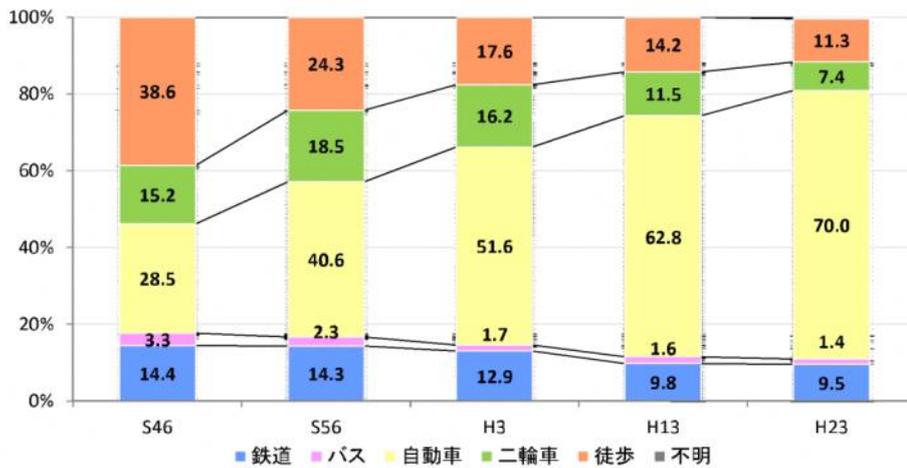
出典：市統計書

図表 三重県における交通手段別分担率の推移



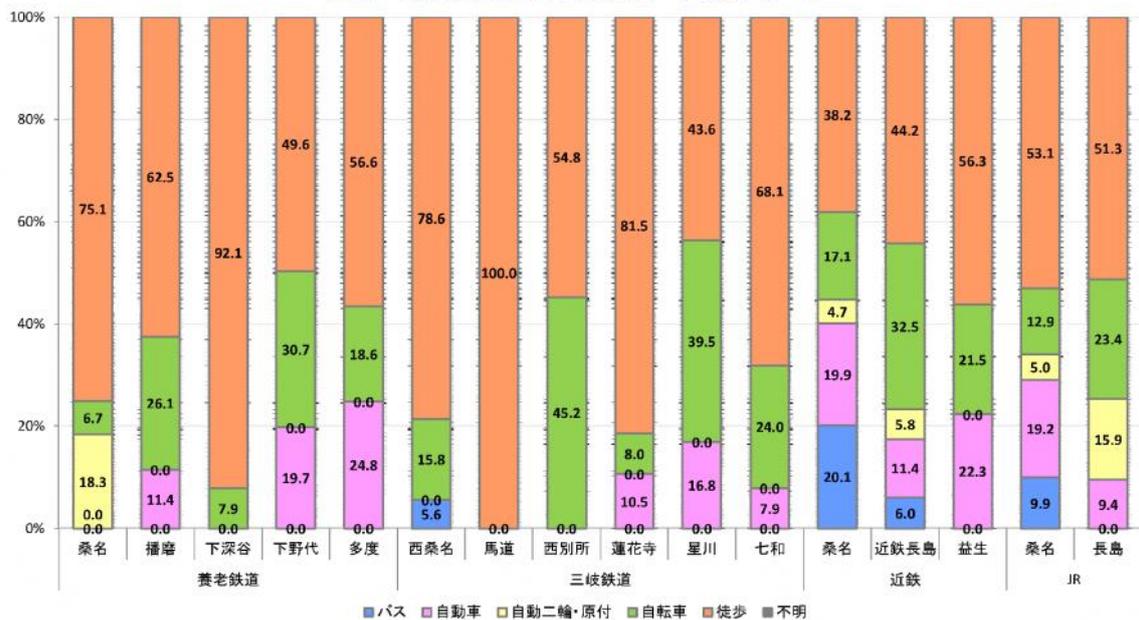
出典: 中京都市圏パーソントリップ調査

図表 桑名市における交通手段別分担率の推移



出典: 中京都市圏パーソントリップ調査

図表 鉄道端末交通手段分担率（平成 23 年）



出典: 中京都市圏パーソントリップ調査

## (2) 桑名市における都市構造の課題

〔出典：桑名市立地適正化計画「5.集約型都市構造の必要性」より抜粋〕

### 1) 中心市街地の活性化

将来的に中心市街地での人口減少が見込まれ、まちなかの活力が低下する可能性があります。歴史的にみて本市のアイデンティティを形づくる中心市街地であることから、都市機能の維持や歴史・文化の継承のためにも、中心市街地の人口集積を図り、地域のコミュニティを維持していくことが必要です。中心市街地の活性化に向けては、桑名駅を中心に交通結節点の機能強化を図り、都市機能の集積やまちなか居住を促進し、利便性を高めることが重要です。また、鉄道により市街地が分断され、地域の交流が妨げられていることから、鉄道による分断を解消し、駅周辺に立地する各種都市機能が効果的に活用できるよう、中心市街地を一体化することも重要です。

### 2) 公共交通の利便性・持続可能性

将来的には、人口減少及び人口構造の変化により、バス路線の利用圏域人口は大きく低下し、生産年齢人口の減少及び少子化に伴い、鉄道やバス路線の利用主体となっている通勤・通学利用が減少することが予測されます。

都市の骨格を形成する北勢線や養老線の維持・活性化、バス路線のサービス水準・利便性を維持することが課題となります。

### 3) 生活サービス施設の利便性・持続可能性

人口密度の低下により、行政施設、文化施設、商業施設、医療機関、子育て支援施設などの都市機能や生活サービス機能の利用者数が減少し、施設の撤退や、集約化が進み、現状の都市機能や生活サービス機能の利便性確保や維持が困難となります。

### 4) 丘陵地の住宅団地におけるコミュニティ形成

大山田団地等郊外の丘陵地に開発された住宅団地においては、今後、人口減少と急激な少子高齢化が進むことで、地域の結びつきが希薄になることが懸念され、地域コミュニティの持続・活性化に向けた人口維持と世代間バランスの確保が課題です。

### 5) インフラの既存ストックの有効活用

本市の厳しい財政状況下では、持続可能なまちづくりを進める上で、公的不動産の有効活用も含めて、インフラの既存ストックを有効に活用することが課題となります。

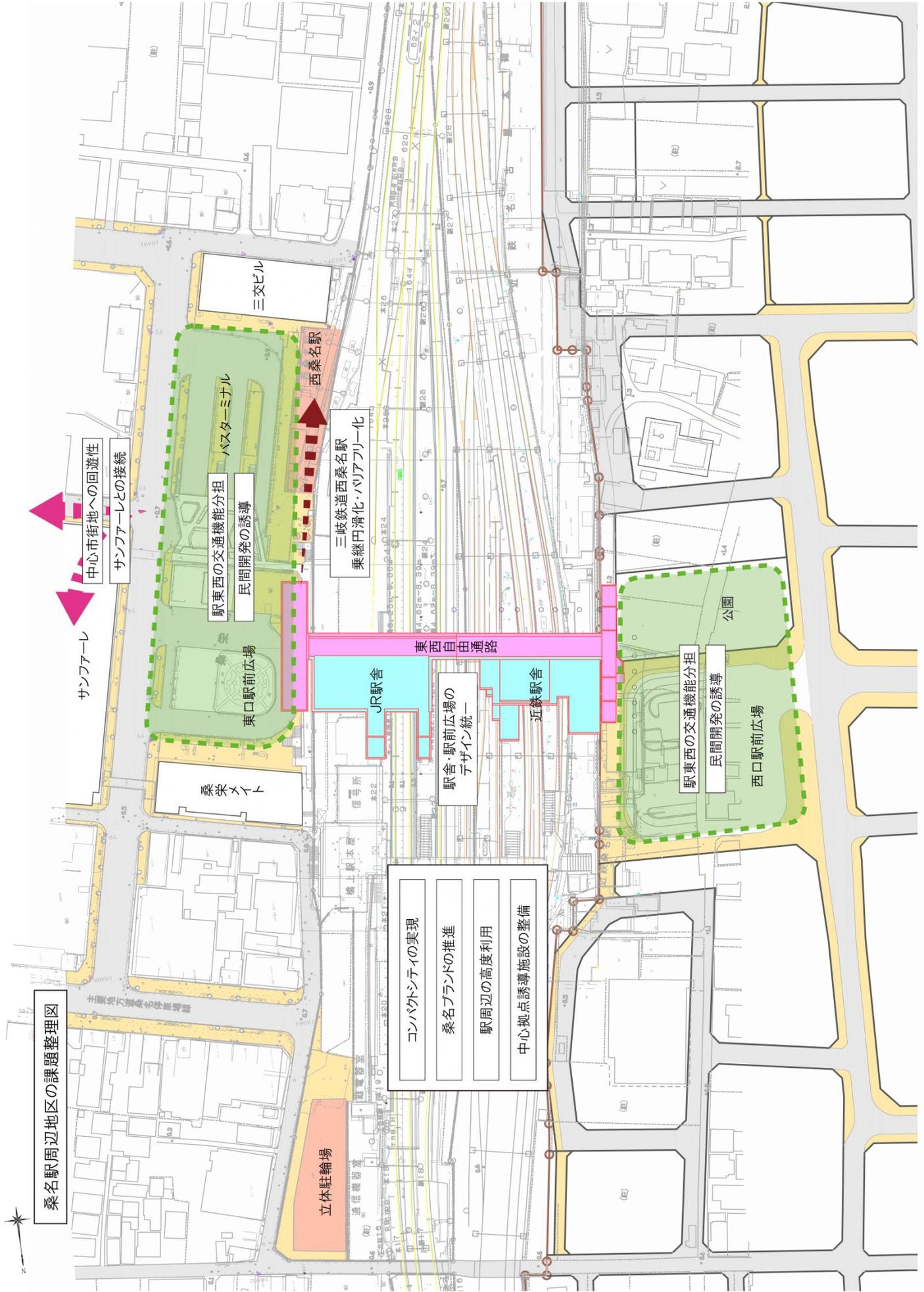
### 6) 災害に対する市街地の安全性

本市では、古くから水との戦いの中で独自のまちが形成された歴史があります。今後想定される津波や洪水の浸水想定区域内においても、居住が分布している状況であるため、長期的な視点で、災害の可能性が低い地域への居住を促すことも課題です。

### (3) 桑名駅周辺地区の課題の整理

本市の現状と課題を踏まえ、桑名駅周辺地区における課題を以下に整理します。

項目	整備計画上の課題
コンパクトシティの実現	○人口減少や少子高齢化社会に対応するため、病院や福祉施設等の医療環境と商業施設等のにぎわい環境を駅周辺に集め、コンパクトシティの実現に取り組む必要がある。
桑名ブランドの推進	○桑名市の魅力を県内外ひいては海外に向けて発信できるようなブランド力を駅周辺整備に活かし、魅力あふれる空間とする必要がある。
中心市街地への回遊性 サンファーレとの接続	○交通結節点としての機能が優れている桑名駅周辺から、中心市街地へと来訪者を誘導する回遊性ルートを検討する必要がある。また、既設のサンファーレとの接続機能を維持することがもとめられる。
駅東西の交通機能分担	○駅東西の交通機能の役割分担を明確にする必要があり、その上で、東西駅前広場のあり方（機能配置）を検討する必要がある。 ⇒公共交通の考え方、一般車利用状況の整理が必要。
駅舎・駅前広場の デザイン統一	○自由通路整備に伴い、JR 駅舎及び近鉄駅舎を整備する際、全体的に統一されたデザインにする必要がある。 ⇒統一されたデザインコードを用い、桑名市のブランドイメージに即した景観形成を行う必要がある。
駅周辺の高度利用	○桑名駅周辺地区が持つ地理的優位性により、将来的に地価価値が上がる可能性が高いため、駅周辺の高度利用を促進し、活性化を図る必要がある。 ⇒都市機能を駅周辺に集積させることにより、民間誘導を含めた高度利用の促進を進める。
民間開発の誘導	○桑名駅周辺への都市機能の集積により、にぎわいと活力ある中心拠点を形成するためには、民間主導による開発を誘導する必要がある。
三岐鉄道西桑名駅 乗継円滑化・バリアフリー化	○自由通路の整備により、乗継距離は短縮されるが、現在の西桑名駅舎はバリアフリー未対応である。（現状、車いす利用者は改札を通過せず、ホーム北側より出入り。）
中心拠点誘導施設の整備	○市民生活を豊かにするため、商業機能、子育て支援機能、高齢者支援機能を備えた中心拠点誘導施設を整備する必要がある。



### 3. 桑名駅周辺地区のまちづくりの方針

---

「本物力こそ、桑名力。」 ～ 桑名をまちごと「ブランド」に ～

“本物”桑名の玄関口 市民生活と観光交流の拠点づくり

#### 桑名市の顔づくり

○桑名市の玄関口となる桑名駅は、デザインコードを用いた質の高い景観デザインで、東西を一体的なシンボル空間とする“本物”桑名の顔づくりを行う。

#### 安全で便利な交通結節点づくり

○高齢化社会に対応した、歩いて暮らせるまちづくりを進めるため、安全で利便性の高い交通結節機能を再構築する。

#### 駅東西の機能分担によるまちづくり

○観光やビジネスで訪れる拠点となる東口を観光交流拠点、市民の通勤通学や買い物などの拠点となる西口を市民生活の拠点として機能分担し、駅東西の連携を図ることにより、桑名駅周辺の都市機能を再構築する。

#### にぎわいを生み出す都市機能の集積

○観光交流の拠点となる東口周辺は、観光やビジネスに訪れた方の利便性に配慮しながら、民間活力の誘導によるにぎわいを生み出す都市機能を集積させ、中心市街地の歴史的・文化的資源への回遊性を強化する。

#### 安心して暮らせる都市機能の集積

○市民生活の拠点となる西口周辺は、民間活力の導入により、誰もが安心して暮らせる都市機能を集積させ、コンパクトシティを実現する。

## 4. 桑名駅周辺地区のまちづくりのデザインコード

まちづくりの方針の中で、「桑名市の顔づくり」として、デザインコード\*を用いた質の高い景観デザインとしています。桑名駅の玄関口となる駅舎建築や駅周辺における建築デザインなどにおいては、公共も民間も含めて、デザインコードを定めて、まちづくりを進めていくことが望めます。

\*デザインコード (Design codes) : デザインコードとは、景観構成要素の「あり方」及びその「組み合わせ」についての「視覚的な約束事」

「本物力こそ、桑名力。」 ～ 桑名をまちごと「ブランド」に ～

### 桑名市の顔づくり

○桑名市の玄関口となる桑名駅は、デザインコードを用いた質の高い景観デザインで、東西を一体的なシンボル空間とする“本物”桑名の顔づくりを行っていきます。



コンセプト  
「七里の渡し」と「桑名駅」をつなぐ

### 【桑名駅の位置付け】

#### 「七里の渡し」へと向かう観光の玄関口

桑名駅は、「七里の渡し」エリアへの観光起点となる重要な場所です。観光客の期待感を高めるためにも、“七里の渡しエリア”と雰囲気との調和を図る必要があります。



### 【駅のシンボルとしてのあり方】

#### 桑名宿の玄関口を象徴する”大鳥居”の継承

「七里の渡し」を象徴する大鳥居は、かつて、東からの旅人にとって、伊勢の国の玄関口として特別な存在でした。玄関口の象徴ともいえる“大鳥居”を現代の玄関口である桑名駅デザインのシンボルとして継承します。



## 統一されたデザインコード＝「折衷」の展開

### (1) ジョサイア・コンドルの建築思想【和洋折衷】

コンドルの建築は、洋館の意匠の中に和風の要素を取り入れる手法を随所に取り入れています。(素材の折衷)



### (2) デザインコード

時代を折衷（江戸・明治・大正）したカラーを選定します。(時代の折衷)

#### 明治・大正時代のコンドル建築などに用いられた色調



#### 江戸時代の本多忠勝の兜に象徴される黒色



本多忠勝の兜

## 5. 桑名駅周辺地区の空間デザインの在り方

### 【駅前空間の目指すべき姿】

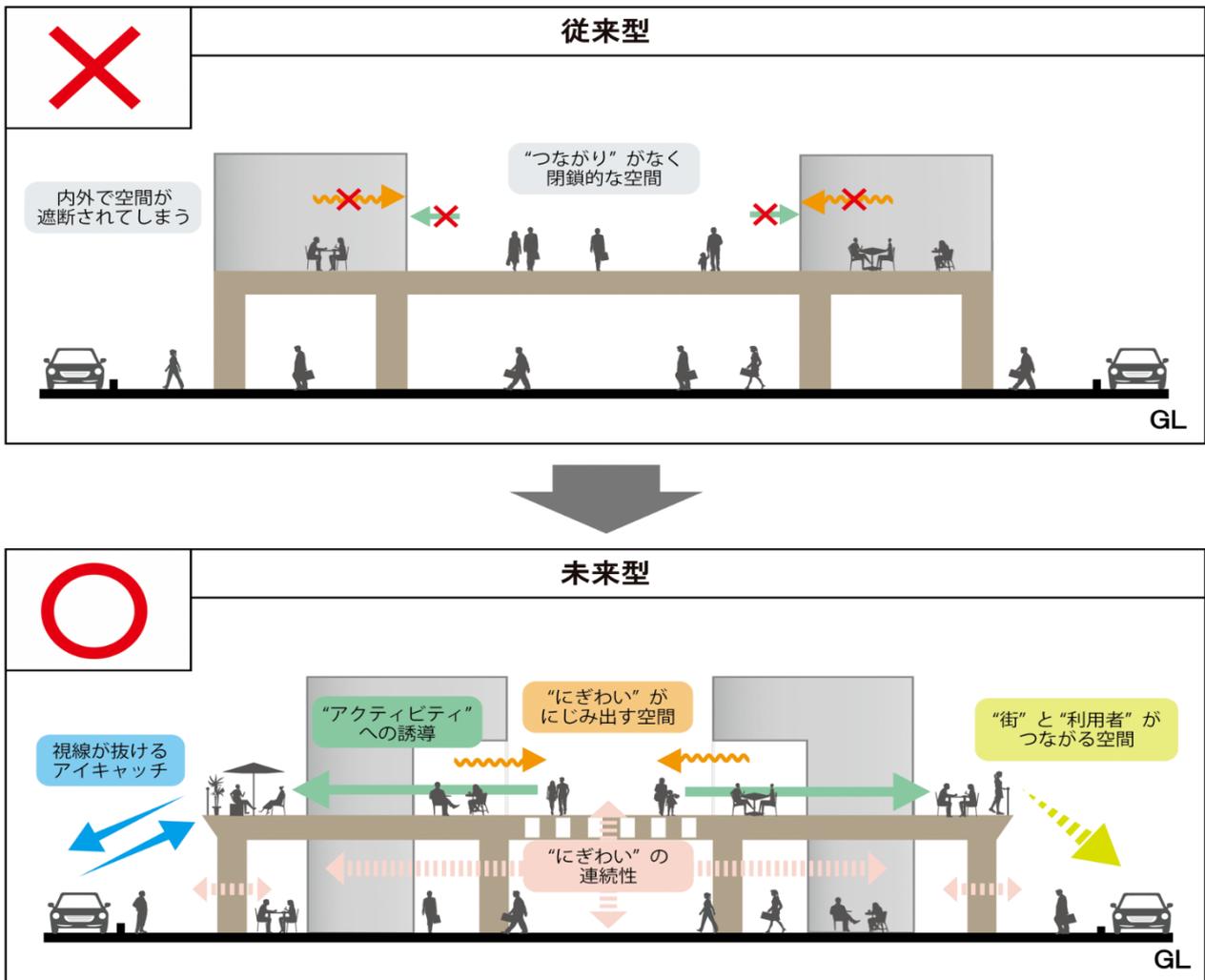
桑名市の玄関口であり、市のシンボル空間となる駅周辺では、景観デザインの統一を図ると同時に、空間としての在り方を検討する必要があります。

特に多くの利用者が滞留し、にぎわいを創出する駅前空間（駅前（東）空間、駅前（西）空間）では、従来の閉鎖的な空間ではなく、屋内と屋外が一体的な空間として捉えることができるような整備が必要です。

駅前空間 ≡ 「まちの縁側・憩いの場」

### ■ 断面イメージ

#### 【空間イメージ】



## 6. 桑名駅周辺地区の整備方針(案)

「3. 桑名駅周辺地区のまちづくりの方針」に基づき、当該地区に求められる6つの機能と整備方針(案)について次のとおり整理します。

### (1) 交通結節機能 ～安全性・利便性に配慮した交通～

#### テーマ 安全で便利な交通広場

駅利用者の利便性・安全性の向上を図るため、交通広場機能を高めるとともに、自動車の交通流の整理や公共交通と一般車の分離などの交通広場の再編、観光バスや送迎車等の乗降スペースなどの交通結節機能を強化する。

#### 駅周辺地区の対象者別利用イメージ

市民（日常利用）	観光客（来訪者）
鉄道の利用（乗継ぎ）	鉄道の利用（乗継ぎ）
バスの利用（乗継ぎ）	バスの利用（乗継ぎ）
タクシーの利用	観光バスの利用
Kーバスの利用	送迎バスの利用
一般車の送迎利用	タクシーの利用
駐車場・駐輪場の利用	駐車場の利用

#### 整備方針(案)

- 地上部における交通広場の再編
- 自由通路と同じデッキレベルにおける安全・安心な歩行者用通路の整備
- 三岐鉄道西桑名駅との一体的整備
- 駅利用者等のための駐車場の整備
- その他多様な交通機能の導入 など



## (4) 生活利便機能 ～快適で過ごしやすい生活環境を整備～

### テーマ 市民の利便性を高める生活利便施設

快適な日常生活をめざし、商業施設を始めとして、子育て支援施設（子育て支援機能）や高齢者支援施設（高齢者支援機能）などの生活利便施設を駅周辺に集積することにより、利便性・快適性を高める。

#### 駅周辺地区の対象者別利用イメージ

市民（日常利用）	観光客（来訪者）
子育て支援施設の利用 高齢者支援施設の利用 生活利便施設の利用 行政窓口機能 駅前交番	

#### 整備方針(案)

- 子育て支援施設等の福祉施設の整備
- 生活利便施設の整備
- 駅前交番の機能維持
- 公衆トイレの整備                      など

## (5) 桑名ブランドの推進 ～“本物”を見せる仕掛けづくり～

### テーマ 桑名の“本物”を見せる仕掛けづくり

ユネスコ無形文化遺産に登録された石取祭や、全国でも唯一、4社の鉄道と3種類のゲージが見られることなどに焦点を当て、桑名の“本物”を見せる仕掛けづくりや情報発信を行う。

#### 駅周辺地区の対象者別利用イメージ

市民（日常利用）	観光客（来訪者）
4社の鉄道と3種類のゲージの案内 「石取祭」の案内、展示	

#### 整備方針(案)

- 三岐鉄道・各種ゲージの見える化                      など

## (6) 中心市街地への回遊性

### テーマ 中心市街地の一体化

旧城下町や医療センターなどの都市機能が集積する中心市街地を結ぶ歩行者空間の整備などにより一体化を図る。

### 駅周辺地区の対象者別利用イメージ

市民（日常利用）	観光客（来訪者）
医療センターへの移動 サンファールとの接続 周辺施設との接続	中心市街地（旧城下町）へ回遊

### 整備方針(案)

- 桑名駅から医療センターへの安全な歩行者空間の整備
- サンファール等、周辺施設との接続、回遊性の確保 など

# 桑名駅周辺地区の機能配置イメージ

